

杵築城(木付城, 勝山城, 臥牛城) (指定なし) (杵築市杵築) (城山公園)

杵築城（きつきじょう）は、大分県杵築市杵築にあった城郭。

概要

杵築城は、室町時代初期に木付氏によって八坂川の河口にある台山（だいやま）の上に築かれた。台山は、北は高山川、東は守江湾に囲まれた天然の要害である。連郭式の平山城で、台山を空堀により4区画に区切られていた。当初は台山山城に主郭部が設けられたが、慶長元年（1596年）の震災と、慶長2年（1597年）の暴風雨によって天守などが損壊したため、台山北麓に居館が移され、正保2年（1645年）以降は松平氏により山上の郭群が廃止されている。

歴史

明徳4年（1393年）に、木付頼直により築かれた。戦国時代、島津氏の大軍に攻められるが、籠城の末これを退けた。しかし、後に主君の大友義統が文禄の役での失態の責めを負って豊臣秀吉により幽閉されると、当主木付統直は自刃し木付氏も滅びた。

その後、前田玄以、秀吉の腹心だった宮部継潤、杉原長房、続いて慶長4年（1599年）には細川忠興の所領となり、重臣の松井康之・有吉立行を城代として置いた。寛永9年（1632年）、忠興の子・忠利が熊本藩に移封となると、替わって小笠原忠知が入った。その後、正保2年には松平英親（能見氏）が豊後高田藩より3万2千石で封じられ、その後明治維新まで居を構えた。

現在、山上は城山公園として整備され、一部石垣が残る。天守は慶長13年（1608年）に落雷で焼失して以来再建されなかったが、現在本丸の天守台跡には3層の模擬天守が建てられ資料館として利用されている。山麓居館部は、現在の杵築神社、杵築中学校一帯に位置し、神社北側に石垣が残っている。御殿跡には現在図書館と公民館が建つが、庭園の遺構が残る。また、旧城内城鼻地区に旧船形屋敷が現存し、現在は民家として利用されている。このほかに、藩校学習館の正門が、杵築小学校の裏門として現存している。

Wikipediaによる



杵築城縄張図

